



吉元 一夢 よしもと・ひとむ

株式会社THINX 代表取締役。データアナリスト・統計士・BIコンサルタント・BIエンジニア。文部科学省認定統計士過程修了。現在は、IT企業のシステム開発やソフトウェア開発にアドバイザーとして従事しながら、パチンコホール・戦略系コンサルタントとして活動。



THINX公式LINE

文部科学省 文部科学省認定統計士  
221010061

# 魅力的な遊技機が選ばれる時代ではない!?

## ～台あたりの遊技人数から見た需要と供給バランス～

稼働構造:導入1週目

機種名	eユニコーン	LT貞子	e北斗10	e慶次
1人あたりアウト(個)	3,070	3,350	3,240	3,560
台あたり遊技人数(人)	11.6	10.6	8.8	8.4

前号でまとめた稼働構造に従って分析を進めると上表の通りとなる。アウトを構成させる要素を見るとプレイヤーの遊びかたの質を表す1人あたりアウトは、『e慶次』が最も高かった。しかし、台あたりの遊技人数は8・4人となっており、1台あたり

で創出したプレイヤーの数は最も低い数値となった。つまり、他の機種に比べると供給数が多すぎたことが示唆される。『e北斗10』も同じ傾向である。その一方で『eユニコーン』と『LT貞子』は10人を超えるプレイヤーの創出に成功しており、供給よりも需要が高い傾向にあることが示された。

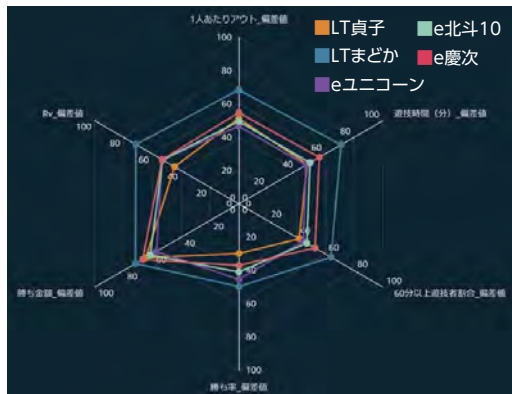
つまり、遊技機のポテンシャルがヒットの要因に起因しているというよりは、需要と供給のバランスが影響していると考えられるということ。実際に、遊技機のポテンシャルを相対比較すると、『eユニコーン』も『LT貞子』も圧倒的な魅力を有している訳ではないことがわかる。

2021年から起算してリリースされた「ミドルタイプ」「LTタイプ」を母集団としたときの『eユニコーン』と『e貞子』のポテンシャルを示す偏差値(図1参照)は、スバ抜けて高いという訳ではない。プレイヤーの心理状態が表れる遊技時間の偏差値に限っては『e慶次』や『e北斗10』の方が高く、むしろスバ抜けていたのは『LTまどか』である。したがって、データ分析を生業としている私からすると、『eユニコーン』や『LT貞子』がポテンシャルに左右されることなく動く様にはかなりの違和感を覚える。

過去の統計データから得られたファクトとして、遊技時間などのプレイヤーの心理状態が表れるデータの偏差値が高い機種が長期に活躍するという傾向は今も変わらない。おもしろい・魅力的と感じているからこそ、それらデータは高くなり、偏差値として客観視できる。

しかし、最近ではそうした要素を無視したような恰好で需要と供給のバランスが稼働面や評価軸のウェイトを占めはじめています。遊技機の事前評価を行う際や導入後の判断基準には、販売数や台あたりの遊技人数といったデータはベンチマークしておく必要があるだろう。

図1:偏差値分析



©THINX-LAB.OLAP SIS ©SUNTAC|TRYSEM|よりデータ引用

あるだろう。

視したような恰好で需要と供給のバランスが稼働面や評価軸のウェイトを占めはじめています。遊技機の事前評価を行う際や導入後の判断基準には、販売数や台あたりの遊技人数といったデータはベンチマークしておく必要があるだろう。

過去の統計データから得られたファクトとして、遊技時間などのプレイヤーの心理状態が表れるデータの偏差値が高い機種が長期に活躍するという傾向は今も変わらない。おもしろい・魅力的と感じているからこそ、それらデータは高くなり、偏差値として客観視できる。

しかし、最近ではそうした要素を無視したような恰好で需要と供給のバランスが稼働面や評価軸のウェイトを占めはじめています。遊技機の事前評価を行う際や導入後の判断基準には、販売数や台あたりの遊技人数といったデータはベンチマークしておく必要があるだろう。

過去の統計データから得られたファクトとして、遊技時間などのプレイヤーの心理状態が表れるデータの偏差値が高い機種が長期に活躍するという傾向は今も変わらない。おもしろい・魅力的と感じているからこそ、それらデータは高くなり、偏差値として客観視できる。

過去の統計データから得られたファクトとして、遊技時間などのプレイヤーの心理状態が表れるデータの偏差値が高い機種が長期に活躍するという傾向は今も変わらない。おもしろい・魅力的と感じているからこそ、それらデータは高くなり、偏差値として客観視できる。